

神戸市内の都市公園でトモンハナバチを目撃

吉田浩史

はじめに

トモンハナバチは、膜翅目ハキリバチ科（ミツバチ科とする意見もある）に属するハナバチの一種である。神戸市では2015年版のレッドデータにおいて要調査に選定されている（神戸市, 2015）が、市内における具体的な採集記録はないようである。筆者は本種を神戸市内の都市公園内で目撃したので、ここに報告する。

生態等

日本（本州・四国）、朝鮮半島及び中国からヨーロッパに分布する（多々内・村尾, 2014）。本州では青森県から岡山県までの本州各地で局所的に発見されており（松村, 2008）、一般的に稀とされているが、関西地方では低地において、関東地方では山梨県及び長野県の山間部において比較的普通にみられる（中村, 2003; 上森, 2017）。成虫は7～9月に出現し、ハギ等のマメ科の他、ミソハギ、ニンジンボク、ネジバナを訪花する。竹筒やヨシの筒に営巣し、ヨモギなどの綿毛を抱えて巣に戻り、それで育房を作る（多々内・村尾, 2014; 京都府, 2015, 上森, 2017）。

未発表であるが、筆者は近隣の大阪府において、大阪市の長居植物園及び高槻市の淀川河川敷草地において多数の個体を目撃している。また京都府では、京都市や八幡市の河川敷・公園で比較的多くの個体が見られることが明らかになった（京都府, 2015）。

一方、兵庫県からの記録はほとんどなく、確実なものの上森（2017）による尼崎市からの記録のみと思われる。今回、神戸市の目撃記録に加え、筆者が以前採集していた標本の記録も合わせて報告しておく。

データ

トモンハナバチ *Anthidium septemspinosum* Lepeletier, 1841
1 ♀（目撃）、神戸市灘区六甲町、六甲風の郷公園、35m, 24. VII. 2019, 吉田浩史; 1 ♀、たつの市今市、揖保川河川敷、10m, 11. VIII. 2007, 吉田浩史。

発見場所は、神戸市では都市部の公園であったが、捕虫網を持っていなかったため採集は出来なかった。植栽のローズマリーの花の周辺を飛んでいた（写真）が、訪花は確認していない。また、営巣場所も不明である。

たつの市の確認場所は河川敷草地であった。



トモンハナバチを目撃した公園の植栽周辺。

○参考文献

- 神戸市, 2015. 神戸の希少な野生動植物—神戸版レッドデータ 2015 — (<http://www.city.kobe.lg.jp/life/recycle/biodiversity/rd/img/rdb2015.pdf>).
- 京都府, 2015. 京都府レッドデータブック 2015. 京都府環境部自然環境保全課 (<http://www.pref.kyoto.jp/kankyo/rdb/index.html>).
- 松村雄, 2008. トモンハナバチの巣場所探索と保全. 昆虫と自然, 43(9): 39-43.
- 中村和夫 2003. ハチ目 Hymenoptera (アリ科を除く). とちぎの昆虫 I. (栃木県自然環境基礎調査) 栃木県, 249-336.
- 多々内修・村尾竜起, 2014. 日本産ハナバチ図鑑. 479pp. 文一総合出版.
- 上森教慈, 2017. 兵庫県尼崎市の都市公園におけるハチ相. きべりはむし, 40(1): 4-8

(Hiroshi YOSHIDA 神戸市東灘区)

加東市でトゲアリを確認

柴田 剛

加東市の「やしろの森公園」で昆虫と植物の写真撮影をしていたところ、トゲアリ *Polyrhachis lamellidens* Smith, 1874 を撮影するとともに、採集することができたので報告する。

本種は、クロオオアリやムネアカオオアリの巣を乗っ取って寄生する社会寄生性のアリで、寄主アリの豊富な広い生息環境と湿った森林環境が必要であり、そのような環境が縮小悪化しているとして国のレッドデータブックで「絶滅危惧Ⅱ類」になっている。最初に写真撮影したときにはレッドデータブックの対象種になっていることに気づかず採集はしていなかったが、その後何度か現地を訪れ、写真撮影した場所から少し離れたところでようやく採集することができた。



トゲアリ, 加東市上久米やしろの森公園, 2019年6月10日.

採集場所: 加東市上久米 (やしろの森公園), 遊歩道の木製手すりの上, 2019年7月23日

撮影場所: 同上, 2019年6月10日

○参考文献

吉田浩史・八木剛, 2016. 神戸市の注目すべき双翅目および膜翅目の記録. きべりはむし 38(2): 21-25
環境省, 2010. 改訂レッドリスト付属説明資料 昆虫類: 306. 環境省自然環境局野生生物課

(Takeshi SHIBATA 兵庫県明石市)

宝塚市におけるフタテンカメムシの採集例

宇野宏樹

フタテンカメムシ *Laprius gastricus* は小楯板の両端に小さな白点があるカメムシである. 本種は海岸に生えたイネ科植物の根元や, シバ草原に生息することが知られており (岡山県, 2009; 島根県, 2014), 一般に個体数の少ない希少種とされている (岡山県, 2009). 兵庫県内でもあまり多いものではないのか, 県内の記録は見つけられなかった. 筆者は宝塚市で本種を採集しているので報告する.

2exs., 兵庫県宝塚市蔵人, 23. VII. 2017

2exs., 兵庫県宝塚市蔵人, 31. VII. 2019

4exs. (写真), 兵庫県宝塚市蔵人, 5. VIII. 2019, 筆者採集保管

すべて夜間に灯火に飛来していたところを採集した個体である. 採集地付近にはゆずり葉台緑地公園と逆瀬川が存在するが, 公園内および河川敷には小規模な草地があり, おそらくそこで発生したものと思われる. 本公園にはチビサクラコガネが多く見られるが, この種がフ



フタテンカメムシ, 宝塚市蔵人, 2019年8月5日.

タテンカメムシと同じくシバ草原を住処としていることは興味深い. 末筆ながら, 文章を見ていただいた田中雅之氏 (尼崎市) にこの場を借りて厚くお礼申し上げる.

○参考文献

岡山県版レッドデータブック, 2009. 昆虫類. <http://www.pref.okayama.jp/seikatsu/sizen/reddatabook/pdf/a177.pdf>
改訂しまねレッドデータブック, 2014. 昆虫類. <https://www.pref.shimane.lg.jp/infra/nature/shizen/yasei/red-data/kaiteishimaneRDB2014animal.data/doubutu.pdf>
宝塚市生態系レッドデータブック, 2012. http://www.city.takarazuka.hyogo.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/025/676/seitaikei_rdb.pdf
安永智秀, 山下泉, 川澤哲夫, 高井幹夫, 川村満, 1993. 日本原色カメムシ図鑑. 全国農村教育協会

(Hiroki UNO 兵庫県西宮市)

キマダラカメムシの吸汁観察 2例

久保弘幸

キマダラカメムシは外来の大型カメムシで, 筆者宅の周辺では2012年頃から目立ち始めた種であるが, 近年は身近に見る最も普通種となっている. 本種はさまざまな植物をホストとするが, 筆者は偶然の機会に, 本種の幼虫および成虫が植物以外から吸汁する状況を観察したので報告する.

キマダラカメムシが, 一般的にこのような吸汁習性を持つのかどうかについて, 筆者は知識をもたないが, 管見の限り, こうした報告は見当たらない. 事例1・2とともに, 植物からの吸汁とは異なる栄養源であった可能性があり, 本種の生態の一端として興味深い.